

2019 埼玉労山石巻震災復興支援報告

2019.4/12(金)～4/14(日) 自然保護委員長 瀬下啓司



今年も石巻へ東日本大震災の復興支援ボランティアに行ってきました。あれから8年、私が企画して4回目、埼玉労山としては13回目のボランティア活動です。参加者は16名、継続して参加して下さる方も多く、頭が下がる思いです。

4/12(金)夜、川越と熊谷の2ヶ所から貸切バスに乗り込み石巻へ向けて出発。4/13(土)、宮城県石巻市牡鹿半島の谷川浜に到着。朝8時から16時まで、3回の休憩を挟んでボランティアを行いました。作業はホヤの養殖のお手伝いです。カキの殻に穴が空いているものを紐に通していく作業で、1本の紐に70～80個くらいの貝殻を通したら出来上がり。これを延々と繰り返しやります。この紐を海中に吊るとホヤの稚貝がカキの貝殻に付着してホヤが育つそうです。3年ほどで出荷できるまでになります。作業をしながら現地の方からお話を伺うことも楽しく、単純作業が続くものの、時間があっという間に過ぎていく感じです。10時と3時の休憩時間にはお菓子やコーヒ、お茶などをいただきました。



お昼にはホヤ(冷凍したものを料理)やモズクガニ、ひじきの煮付けやお漬物などの手料理のご馳走を振る舞っていただきました。また、作業のお礼にと採れたての塩蔵わかめや芽かぶなどのお土産を毎回頂戴し、こちらが恐縮してしまうほどです。作業終了後は民宿あたご荘で汗を流し、女将さんの手料理で乾杯。その後は夜行バスの睡眠不足のためか、皆さんバタンキューでした。



翌日の4/14(日)は例年ですと石巻市内の被災地見学を行っていましたが、今年は福島
の原発被災地見学を行いました。バスで福島県の南相馬に移動、そこで福島県連盟の村
松孝一さんと合流。バスに村松さんがガイドとして乗り込み、原発被災地見学がスター
トしました。村松さんは登山時報の4コマ漫画、「フウフウハアハア」を10年以上も連
載されている方で、元福島県連盟の理事長でもいらっしゃいます。また原発ゼロの宣伝
行動を毎週金曜日に実施し、これまでに300回以上も続けていらっしゃいます。



南相馬市小高区では希望の牧場を見学、被曝して殺処分しなければならなかった
300頭の牛たちを守り、餌を与えて飼いつけている吉沢さんの牧場。牛たちが無言で原
発の悲惨さを訴えているようでした。また、2016年に避難解除となったこの辺りには
フェンスに覆われた汚染土壌の仮置場が至るところに。元は田んぼだったであろう土地に
は黒いビニールに詰められたたくさんの汚染土壌が整然と積み上げられ、これもまさに
異様な光景です。浪江町ではプレハブの復興商店街で買い物。役場に隣接していること
もあり、ここだけは人影を多かつたのが救いです。津波により午後3:45を指して止ま
ったままの時計が残る請戸小学校。ここは海沿いの学校でしたが、先生や生徒の連係で
地震のあと全員が裏山に走り、津波から逃れたお話も胸に迫りました。残念ですがここ
請戸の町では津波の被害により182名もの方がお亡くなりになったとのこと。そ
の後バスはいよいよ核心部に近づいていきます。いわゆる帰還困難区域です。まだ常磐
線は一部が不通ですが、常磐道と国道6号線だけは帰還困難区域を通過することができ
ます。完全にゴーストタウンと化した街並みは本当に不気味で、かつていろいろな人た
ちが過ごしていたことを想像すると胸が痛みます。国道6号線から、「福島第一原発入
口」の道標が見えました。まだまだ先が見えない廃炉への遠い道程を考えると、「原発

いらない」の声をさらにあげていかなければと思います。次にバスは南側の帰還困難区域との境界線近くにある富岡町の夜ノ森地区へ向かいました。ここには2.2 kmにも及ぶ桜並木で有名な所です。ところがそのうちの1.9 kmの部分は帰還困難区域にあるため、現在では限られた部分しか見ることはできません。丁度桜が咲いているころでしたので、私たちも区域は限られていましたが、見事に咲き誇る桜を見ることができました。しかし、ここでも見事な桜を見ても何故かうれしい気持ちになれなかったことは言うまでもありません。新聞で読みましたが、我々が訪れる数日前に現在は他の場所に住んでいる元夜ノ森地区の住民の皆さんがバスで桜並木を見学したそうです。この時は許可が出て2.2 kmの桜並木を見ることができたそうです。元住民の皆さんは桜並木を見て何を思ったのでしょうか。懐かしい気持ちや今も街に戻ることができないもどかしさで、何ともいえない思いだったと思います。

報告が遅れてしまい、今は参議院選挙戦が行われています。原発を推進し、辺野古の海や南アルプスの大自然を破壊する現政権に「NO」の声をあげていきましょう。



2019.4/12(金)～4/14(日)

埼玉労山 石巻震災復興支援感想

どんなことをするのか？と思いつつ参加した。この会に入ったのは去年の5月、ようやく1年過ぎたところなのでこの様な活動がある事も知らず、何もできないけど何か支援に参加できたらいいなあと思っていた。

1日目 ひもにかきのからを通す作業

最初は大変で単純作業と思ったがコツをつかむとおもしろくなった。作業場の夫婦が津波の時の話をして下さり体験にもとづく話が聞けてよかった。あたご荘の女将からも津波後のボランティアとのふれ合いなど、個人ではなかなか出合えないことばかりだった。

2日目 原発被災地の見学

放射能という目に見えない原発。住めなくなってしまった我家。帰れないさびしさ。作ることができない田畑。桜がきれいなのに通れない道。村松さんのわかりやすい説明、これからどうなるのだろうかと思われました。請戸小学校物語から子供達は今何を考え生きているのか、より添っていきたいと思いました。

深谷こまくさ山の会 s h

今回参加させて頂いて良かったです。今までは石巻の復興についてが多かったのですが、今回は福島にスポットを当てたのは良かったと思います。津波被害プラス放射能というとてもつらいもので、机上での勉強とは違い実際現地での体験は驚きでした。

石巻は少しずつ復興を感じられましたが、放射能での汚染はとてつもない年月がかかるんだなあと感じられました。福島の村松さんの説明にはお世話になりましたが、長い間の苦勞を察しられます。政治的にも福島を第一に考えて欲しいと思います。

新座山の会 i m

ほやの種つけ作業は何回もやっているのでも要領も良くなりました。少しはお役に立てたかなと思いました。石巻のおいしいごちそうが食べられ幸せでした。特に「ほや」がプリプリしていておいしかったです。

2日目の福島の見学ツアーは良い企画だったと思います。除染されていない場所は今だに放射線量が高いということがわかり、驚きました。今だに「帰宅困難地域」があるということが驚きでした。いかに原発は怖いものかということが再度わかりました。こういう現実を「風化させて、なかったことにしよう」という事は絶対にあってはいけないと思いました。企画をしていただいた瀬下さん、いつもありがとうございます。毎年人を集めるのが大変だとは思いますが、継続していくことの大切さを感じました。今後も協力していきたいと思っています。

新座山の会 s y

3月の県連総会に参加して瀬下さんの熱い思いが伝わり、都合がつけば参加しようと思
い参加させてもらいました。ホヤの養殖種付けも楽しく作業をやることができました。又、
昼食の時も手料理が盛り沢山で美味しく頂きました。特にホヤを焼いたのがとても美味し
かったです。ホヤ種付けのお手伝いをする様になって、「こんなにもホヤが美味しいのか」
とつくづく思いました。

翌日、原発被災地見学ツアーでお話を村松さんより伺い、胸が痛くなりました。知らない
ことだらけだと思いました。請戸小学校のことを知ったり、資料の新聞記事を読んで涙が出
て来ました。言葉では言えないですね。

いろいろと企画して頂き、瀬下さんの頑張っている様子がよくわかります。いろいろとあ
りがとうございました。

新座山の会 t y

原発により多くの心身、経済的不安、負担をうけた人々の今後の気がになります。

マスコミも段々真実を放映しなくなりました。政府もバカな大臣ばかり選出して、昔の田
中正造のような代議士がいなくなりました。真実の声を届ける努力はしなければなら
ないと痛感。

毎年のボランティアを続けることの意義を再確認しました。私は山の会には所属してい
ませんが、多くのことを学びました。

k k

峠山の会の人に誘ってもらい初めて参加しました。

谷川浜のカキのヒモ通しは、お母さん(私と同世代ですけど)の津波の中を泳いで助かった
話や被災の話を聞きながらひたすらがんばりました。8時半から4時まで同じ作業。コツコ
ツ山に登る人はしんぼう強い…(自画自賛)。ほんの少しお役に立てた気がして気分は爽快。
ひじきや芽コンブもおいしかった。防波堤で海が見えないのは少しせつなかった。

最終日は福島原発被災地めぐり。きれいに手入れされている家もあるゴーストタウン。
延々と広がる芦の原となった住宅地。被曝して野牛となった牛を集めて、殺すわけにはいか
ないと育てている希望の牧場の吉沢さんは知らなかったの、そういう生き方をしている
人もいるのかと感銘を受けました。結局国は守ってはくれないんだなと思いました。生で見
て、現地の人のこれから続く終わることのない悲しさ、怒り、憤りを感じ「原発さえなけれ
ば」。これから続く終わることのない放射能の「閉じ方」にため息が出ました。福島県連の
村松さんに説明してもらって良かったです。

i a